

2020（令和2）年度予算について

学校法人 桃山学院
理事長 出田 善蔵

2020（令和2）年度学校法人桃山学院の予算は、予算会議の議を経て、2020年3月24日（火）開催の評議員会後の理事会で承認され成立いたしましたので、ここに予算の概要と予算書類の公開を以下のとおり行います。

■ 資金収支予算概要について

資金収支予算書は、予算編成を通して当該年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。

2019年度補正後予算額との比較で示せば次表のとおりです。

資金収支予算比較総括表

（単位：百万円）

項 目	2020年度予算額	2019年度補正後予算額	増 減
前年度繰越支払資金	8,122	10,178	△ 2,056
資金収入	13,060	11,369	1,692
資金支出	14,003	13,424	578
翌年度繰越支払資金	7,180	8,122	△ 943

<注> 端数処理（百万円未満を四捨五入）の関係で増減額が合致しないことがあります。

以上のように資金収入につきましては、合計で16億9,200万円増の130億6,000万円を計上しました。

これは、2018年度開設の桃山学院教育大学の年次進行にともなう学生生徒等納付金収入の増加、『高等教育の修学支援新制度』実施に伴う補助金収入の増加、2020年度に完成する『あべのキャンパス』の資金対応として特定資産を取崩すことによるその他の収入の増加が主な要因としてあげられます。

一方資金支出では、合計で5億7,800万円増の140億300万円を計上しました。これは、『高等教育の修学支援新制度』実施に伴う奨学費支出の増加、『あべのキャンパス』の開設にともなう光熱水費支出などの諸経費の増加が主な要因としてあげられます。

その結果、資金支出が資金収入を上回り、翌年度繰越支払資金は9億4,300万円減の71億8,000万円を見込んでいます。

■ 事業活動収支予算概要について

事業活動収支予算書は、予算編成を通して当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、当該年度に基本金に組み入れる額を控除した諸活動に対応する全ての事業活動収入と事業活動支出の均衡状態（経営状態）を表す書類です。

2019年度補正後予算額との比較で示せば次表のとおりです。

事業活動収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2020年度予算額	2019年度補正後予算額	増 減
事業活動収入 ①	11,781	10,987	794
事業活動支出 ②	12,324	11,713	611
基本金組入前当年度収支差額③(①-②)	△ 543	△ 726	183
基本金組入額 ④	△ 1,922	△ 1,891	△ 31
当年度収支差額 ⑤ (③ + ④)	△ 2,465	△ 2,617	152
前年度繰越収支差額 ⑥	△ 2,934	△ 454	△ 2,480
基本金取崩額 ⑦	0	137	△ 137
翌年度繰越収支差額 ⑧ (⑤ + ⑥ + ⑦)	△ 5,399	△ 2,934	△ 2,465

<注> 端数処理（百万円未満を四捨五入）の関係で増減額が合致しないことがあります。

以上のように事業活動収入については、7億9,400万円増の117億8,100万円を計上しました。これは資金収支と同様、桃山学院教育大学の学生生徒等納付金の増加、『高等教育の修学支援新制度』実施に伴う経常費等補助金の増加が主な要因としてあげられます。

一方、事業活動支出では、『高等教育の修学支援新制度』実施に伴う奨学費の増加、『あべのキャンパス』新棟建設にともなう光熱水費などの諸経費の増加、新棟完成にともなう減価償却額の増加を主な要因として、6億1,100万円の増となり、合計で123億2,400万円の計上となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額では、5億4,300万円の支出超過となりました。

なお、基本金組入額は3,100万円増の19億2,200万円を計上しました。その主な内容につきましては、『あべのキャンパス』新棟建設によるものとなります。

これらの要因から2020年度予算では、当年度収支差額は24億6,500万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は53億9,900万円の支出超過となる見込みです。

事業活動収入の部合計 117億8,100万円

事業活動支出の部合計 123億2,400万円

